

総務建設

災害ボランティア活動応援

■10月3日開催

災害ボランティア活動に対する支援制度の構築

県は、阪神・淡路大震災から25年目の今年度全国で初めて「大規模災害ボランティア活動応援事業」を新設した。大規模災害からの復旧・復興に向けて、被災者の生活の早期復旧、自立を支援するため、被災地でボランティア活動を行う団体・グループの交通費などを助成するものである。

こうした中で、災害ボランティア活動に対する支援制度の全国展開に向けた意見書の提出について、ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社会福祉協議会）から要請があり、当委員会が審議し意見書を提出する方向で進めることとなった。



委員会では議会閉会中も暮らしやすい町づくりに向けて調査・研究をしています。
なお、詳しい内容は播磨町議会ホームページの委員会報告書をご覧ください。

■10月3日開催（協議会）

播磨町国民保護計画の修正報告

国の指針変更を受け、平成30年12月に兵庫県国民保護計画が変更された。それに伴って播磨町国民保護計画の修正については完了した。基本的には国、県に準拠して国民保護計画は改正する形になる。

■11月27日開催

第5次播磨町総合計画の策定

第4次総合計画が2020年度で計画最終年度を迎えることから、2021年度からの第5次計画を策定する。策定にあたっては、地方創生、SDGsの考え方を計画に盛り込み進めている。計画の策定に伴い住民アンケート調査を実施しており、今後はパブリックコメントも予定している。



▲災害ボランティア活動に支援を



▲公共交通について先進地で学ぶ

■11月21日視察

▼愛知県みよし市
さんさんバスと乗合タクシー

みよし市では、住民意識調査で住みにくい理由のトップに交通の便の悪さが挙げられ、公共交通の整備・充実を求める声が高まった。そこで身近な交通手段として「さんさんバス」の運行となり多くの市民の足として定着してきた。さらに一部交通不便地区においても利用できるように、バスと連携する乗合タクシー制度を設けたことである。

■11月20日視察

▼愛知県蒲郡市
高齢者割引タクシー制度

蒲郡市には、山間部の一部で公共交通がないエリアがある。高齢者の移動手段の確保に重点を置き、公共交通について検討する中で、コミュニティバスの運行に先行して、タクシー業界からの働きかけもあり、ドアツードアで移動できるタクシーの活用となった。



▲住民のお出かけに役立つさんさんバス

厚生教育

福祉会館を指定管理から直営に

■11月11日開催

福祉会館の運営

現在、福祉会館は指定管理者により運営されているが、令和2年4月から町の直営とし、総合相談の充実を図る。具体的には、ひきこもり、自殺対策、生活困窮、居場所づくり、成年後見、就労支援などへの対応を行う。

■主な質疑応答

問 総合相談の対応には専門的な人員を配置するのか。

答 現在、専門的な職員を2名配置しているが、3名に増員する予定である。

播磨西幼稚園の認定こども園移行計画

令和3年4月に播磨西幼稚園が認定こども園に移行予定であったが、業者からの配食が困難であるため、播磨西小学校との親子給食とする。このため、令和5年度からの移行とする。

ごみ中継施設について

中継施設には、主にドラム方式とコンパクタ方式の2つの方式がある。選定基準の策定後、事業者の公募を開始する予定である。

■主な質疑応答

問 ごみ中継施設の問題は臭いである。初めは基準内でも、将来的に臭気が強くなるのではないか。

答 そろそろといった観点も含め、臭気対策を行う。

■11月11日開催（協議会）

播磨町心身障害者福祉年金の廃止

心身障害者福祉年金は昭和40年代に、障がい者に対する制度やサービスが少なく、その不足部分を補うために創設された。現在は、障害福祉サービスの普及によるサービス利用者の増加や、支給量の増加に伴い、サービス費が年々増加している。今後も障がい者（児）の生活支援や社会参加の促進のために、障害福祉サービスを維持していく必要があり、令和2年3月の支給をもって播磨町心身障害者福祉年金を廃止する方針である。

■主な質疑応答

問 一度に全額支給廃止せず、段階的に減らせないのか。

答 サービスが充実し、本人負担が減少している。段階的に減らしてもあまり意味がない。

■9月26日視察

▼東京都荒川区
児童見守り条例

区立小学校に通学する児童の交通安全の確保および交通安全意識の普及のため、通学路に指導員を配置し、児童に対する登下校時の安全指導を行っている。

さらに警察との連携で学校内での不審者侵入訓練や通学時間帯のパトロールなどを積極的に行っている。

みまもりボランティア、子どもの安全情報を保護者に知らせるメール配信や、小学校通学路の900台の防犯カメラ整備など、子供のための施策が行われている。

■9月27日視察

▼神奈川県横浜市
横浜資源循環公社
神奈川輸送事務所

中継輸送施設は、ごみを集めコンテナ内で圧縮するコンパクタ方式を採用している。コンパクタ方式の良い点は、大量のごみを圧縮してコンパクトにする点で、一度に運べる量が増える点である。

悪い点は、圧縮することで出る汚水による臭いがある。

■10月29日視察

▼奈良県生駒市
清掃リレーセンター

日々の収集ごみの大半が直送で焼却施設に運ばれ、家庭からの持ち込みごみに限り中継施設で対応していた。

コンパクタ方式を採用していたが、ほとんど臭いがしなかった。

▼田原本町
清掃センター

中継基地の方式はドラム方式で、ごみをドラムの中で混ぜ、そのままパッカー車へドラムから積み込む方式である。

家庭や事業系の持ち込みごみに限り中継基地で対応しており、臭いは少なかった。



▲ごみ中継施設を視察（生駒市）